

# 複式学習指導における遠隔合同授業を活用した授業改善

## 複式双方型モデル（例）

複式学習指導において遠隔授業をする際のモデルです。通常の一方向の遠隔授業ではなく、双方向型とすることで、教師の直接指導の時間が短いという複式学習指導のデメリットを解消することができます。



## 複式双方型モデルにおける教師の動き

複式指導における指導技術の向上

### 導入 テレビ会議システムによる同時導入

双方の教員がT1として導入を行います。



### 展開 一人もしくはグループで問題解決

双方の教員がT1として「わたり」ながら、2学年分の児童の学習状況を把握します。



### 終末 テレビ会議システムによる協働学習

片方の教員がT1として協働学習を行いそれぞれの考えを共有し、まとめます。T2の教員も、練習合いの支援を行います。



A 小学校

B 小学校

## 遠隔合同授業における児童の学習状況の把握



電子黒板の画面共有機能を用いて、資料をリアルタイム共有し、学習意欲、目的意識を向上させます。

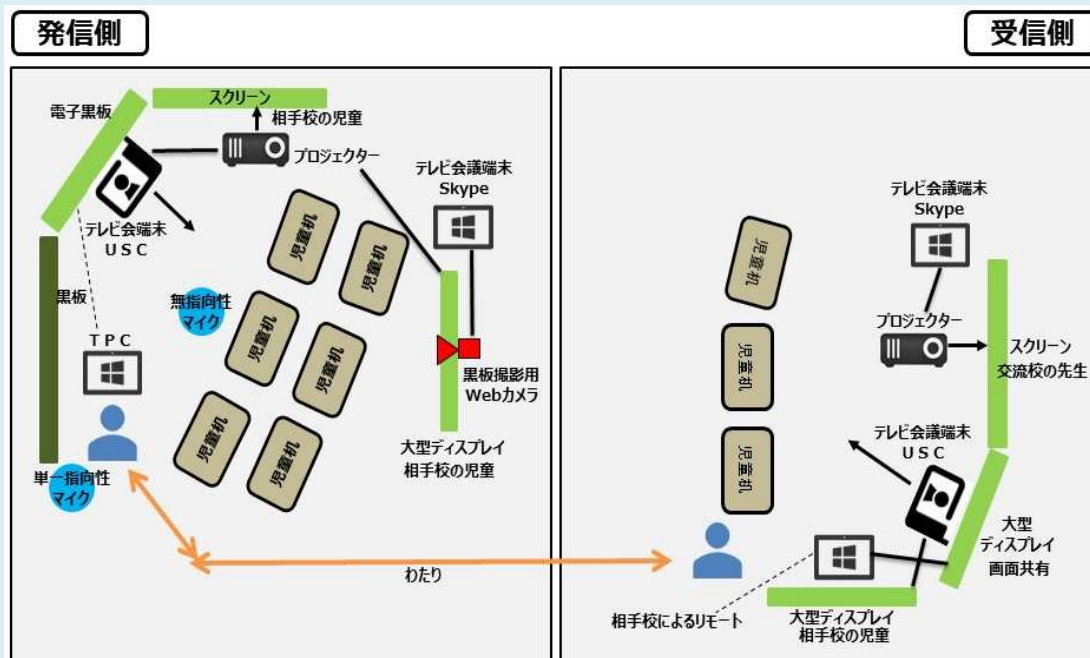


授業支援ソフトの画面共有機能を用いて、両校の児童の考え（デジタルノート、ノートを撮影）を一覧表示します。



サーバー型学習ソフトのアカウントを3校で統合し、それぞれの学校の児童の学習状況を相互把握します。

## 複式双方向型遠隔合同授業の場の設定



- ・担任が、2学年の「わたり」ができる **1 教室内で実施**
- ・二つの遠隔合同授業の **音声**（教師・児童の声）が、**届く状況**
- ・片方の音声が、片方の音声をなるべく **阻害しない状況**（ハウリング含む）
- ・評価は担任が行うが、**遠隔による指導者でも学習状況を把握する手立て**